

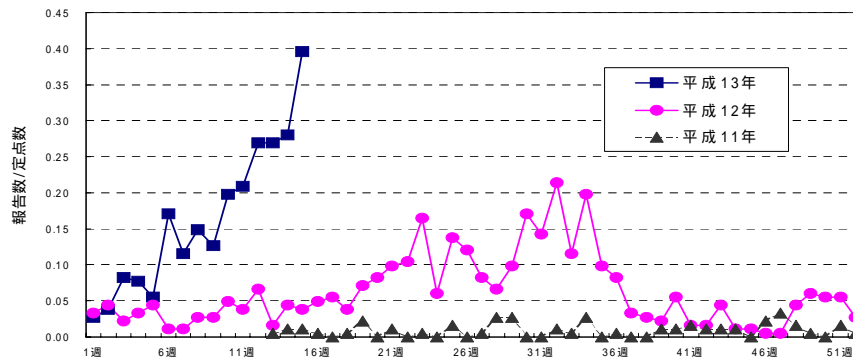
# 愛知県感染症情報

## 平成 13 年第 15 週 ( 4 月第 2 週 )

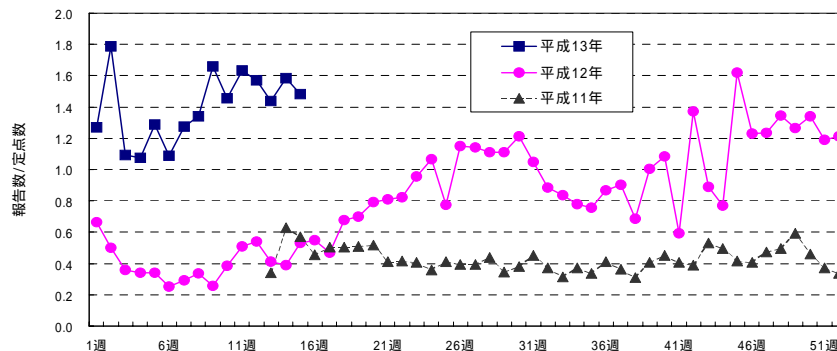
( コメント )

インフルエンザは終息に向かっています。麻疹の報告数が、豊川保健所管内で多いようです。

伝染性紅斑、咽頭結膜熱及び流行性耳下腺炎は報告数の多い状況が続いています。



麻疹 (成人麻疹をのぞく) (名古屋市を含む。平成11年は、13週(4月1日-)から)



流行性耳下腺炎 (名古屋市を含む。平成11年は、13週(4月1日-)から)

( 先生方からのコメント )

### ● 尾張西部地区

- ・ 感染性胃腸炎まだあり

( 一宮市 あさのこどもクリニック )

- ・ 病原性大腸菌陽性者 ( O-15 1歳女、O-25 1歳2ヶ月女 )  
カンピロバクター 5歳男

( 尾西市 城後小児科 )

- ・ 麻疹散発しています。インフルエンザもまだみられます。シンメトレル\*<sup>1</sup>無効例有効例両方でFluA\*<sup>2</sup>(+)の例多し。ムンプス散発中。

( 岩倉市 なかよしこどもクリニック )

注) シンメトレル\*<sup>1</sup>: A型インフルエンザ治療薬。

FluA\*<sup>2</sup>: A型インフルエンザウイルスを検出する迅速診断キットの一種。

- ・ 感染性胃腸炎が流行しています。流行性耳下腺炎の小流行が続いています。  
(江南市 みやぐちこどもクリニック)
- ・ 6歳の女児カンピロバクター(+)でした。  
(春日町 丹羽医院)
- ・ 水痘 男 33歳  
(師勝町 師勝クリニック)
- 尾張東部地区
  - ・ A型インフルエンザがまだみられます(1歳~29歳、8名)。  
マイコプラズマ肺炎3名(5歳男、6歳女、2歳女)  
(瀬戸市 津田こどもクリニック)
  - ・ インフルエンザ減少(今週は全て成人でした)  
流行性耳下腺炎流行中(6歳男児髄膜炎合併にて要入院)  
溶連菌感染症も流行続いています。  
(尾張旭市 佐伯小児科医院)
  - ・ 施設にてロタ感染性胃腸炎7名。  
(尾張旭市 旭労災病院)
  - ・ インフルエンザ減少。ロタ胃腸炎つづく。  
(小牧市 小牧市民病院)
  - ・ ロタウイルスの1乳幼児施設内流行が見られました。  
(小牧市 志水こどもクリニック)
  - ・ マイコプラズマ3人(大人の女、13歳女、6歳女)  
(小牧市 鈴木小児科)
  - ・ 大人のムンプスの感染がまだみられます。インフルエンザも少なくなりました。  
(春日井市 かちがわ北病院)
  - ・ ロタ(+ )の入院例多い,又その親も嘔吐、下痢発症  
(美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院)
- 西三河地区
  - ・ *C. Jejuni*(カンピロバクター属)3歳女  
インフルエンザA減少  
(豊田市 やふそ小児科)
  - ・ ロタウイルス 1歳男  
(岡崎市 深田小児科)

- ・ 7歳女カンピロバクター、咽頭結膜熱散発中  
(岡崎市 花田こどもクリニック)
- ・ 細菌性髄膜炎(肺炎球菌) 9ヶ月  
(岡崎市 川島小児科水野医院)
- ・ インフルエンザA 13歳男  
(岡崎市 永坂内科医院)
- ・ 麻疹1歳男ワクチン未接種  
ムンプス、手足口病時々います  
(碧南市 永井小児クリニック)
- ・ 咽頭結膜熱2例(アデノチェックによる確認はしていません。)  
(西尾市 やすい小児科)
- 東三河地区
  - ・ インフルエンザ筋炎の児が2名  
インフルエンザB型で熱性ケイレンの児が2名(インフルエンザワクチン済)  
(豊橋市 こどもの国大谷小児科)
  - ・ 高熱で異型リンパ球の出現する症例が散見されます。(EBウイルスは、まちまちです。)  
(豊橋市 富田小児科)
  - ・ ロタウイルス腸炎、2例。  
幼児、学童に高熱の続く児が目立つ(39 から 40 )。  
(田原町 かわせ小児科)

(1~3類感染症の発生状況)

腸管出血性大腸菌感染症患者1名。

安城保健所から報告の15歳女。4/11発病、4/12初診、4/13診定。

(全数把握の4類感染症の発生状況)

急性ウイルス性肝炎A型患者1名。

第13週(平成13年3月26日~4月1日)の4類感染症の全国状況  
インフルエンザの定点当たり報告数は先週に引き続き減少している。厚生労働省の「インフルエンザ迅速把握(毎日)報告グラフ」(インフルエンザキャンペーンホームページ<http://influenza-mhw.sfc.wide.ad.jp/new.html> 参照)では、3月20日ごろをピークに患者報告は急速に減少しており、今後、流行は終息に向かうことが示唆される。過去5年間の同時期と比較すると、インフルエンザの定点当たり報

告数がやや多くなっているが、これは例年よりも流行のピークが遅れているからである。定点当たり報告数の今シーズンにおけるピーク値は、流行の大きかった95年や98年と比較した場合、5分の1以下となっている。流行性耳下腺炎は、過去5年の同時期と比較してかなり定点当たり報告数が多くなっており、福井県で7.3、熊本県で4.4の報告がある。麻疹も例年の同時期とくらべ定点当たり報告数がかかなり多く、高知県で2.7、大分県で2.4、熊本県で2.1となっている。咽頭結膜熱、手足口病はオフシーズンとしては例年になく定点当たり報告数が多くなっている。

( Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供 )